

## 楕円単数と 2 変数 $p$ -進 $L$ -関数

九大理 小塚和人 (Kazuhito Kozuka)

### §1. 序

$p$  を奇素数とし, 各整数  $n \geq 0$  に対し,  $\zeta_{p^{n+1}}$  を 1 の原始  $p^{n+1}$  乗根とする.  $\mathbb{Q}_p$  を  $p$ -進有理数体,  $U_n$  を  $\mathbb{Q}_p(\zeta_{p^{n+1}})$  の主単数群とする.  $C_n$  を  $\mathbb{Q}(\zeta_{p^{n+1}})$  の円単数で,  $U_n$  に属するもの全体のなす群とし,  $C_n$  の  $U_n$  における閉包を  $\bar{C}_n$  と書き,  $Y_\infty = \varprojlim U_n / \bar{C}_n$  とおく. ここに逆極限は, ノルムに関するものである. このとき,  $Y_\infty$  は自然に岩沢代数  $\mathbb{Z}_p[[T]]$  上の加群になり,  $\text{Gal}(\mathbb{Q}_p(\zeta_p)/\mathbb{Q}_p)$  の自明でない各偶指標  $\chi$  に対し,  $Y_\infty$  の  $\chi$ -固有空間の characteristic power series は,  $p$ -進  $L$ -関数の補間級数と  $\mathbb{Z}_p[[T]]$  において同伴になる. これは Coleman power series を用いると, 次の方針で証明される.

$\zeta_{p^{n+1}}$  ( $n=0, 1, 2, \dots$ ) を,  $\zeta_{p^{n+1}}^p = \zeta_{p^n}$  となるようにとる. このとき,  $p$  と素な  $a \in \mathbb{Z}$  に対し,  $(\zeta_{p^{n+1}}^a - 1 / \zeta_{p^{n+1}} - 1)_{n=0}^\infty \in \varprojlim_{(Norm)} \mathcal{O}_{\mathbb{Q}_p(\zeta_{p^{n+1}})}^\times$  となる. ここに,  $\mathcal{O}_{\mathbb{Q}_p(\zeta_{p^{n+1}})}^\times$  は,  $\mathbb{Q}_p(\zeta_{p^{n+1}})$  の単数群である.  $C_a(T) = (1+T)^a - 1/T$  とおくと,  $\zeta_{p^{n+1}}^a - 1 / \zeta_{p^{n+1}} - 1 = C_a(\zeta_{p^{n+1}} - 1)$  ( $\forall n \geq 0$ ). 即ち,  $C_a(T)$  は, 乗

法的形式群  $G_m$  の Tate-module  $\varprojlim (G_m)_{p^{n+1}}$  の生成元  $(\int_{p^{n+1}} -1)_{n=0}^{\infty}$  に関する  $(\int_{p^{n+1}} -1 / \int_{p^{n+1}} -1)_{n=0}^{\infty}$  の Coleman power series である。このとき、parameter  $Z = \log(1+T)$  による対数微分  $d/dZ \log C_a(T)$  の係数に、Bernoulli 数が現われる。従って、巾級数  $d/dZ \log C_a(T)$  と、 $\text{Gal}(\mathbb{Q}_p/\mathbb{Q}_p)$  の自明でない各偶指標  $k$  に付随した  $p$ -変換の補間級数から、Cyclotomic な  $p$  進  $L$ -関数の補間級数が容易に構成され、さらに  $\gamma_0$  の  $k$ -固有空間の characteristic power series がこの補間級数であることも導かれる。

上記の内容の elliptic な場合での analogy は、1変数の場合については Coates-Wiles [1], Goldstein [3] 等で、2変数の場合の結果は、Yager [7] で述べられている。

ここでは、Yager [7] における楕円単数の定義を若干修正して、改良された結果を述べる。主結果は、§6, §7 で紹介するが、これは、Goldstein [3] の定理 3.10.1) と定理 3.11.1) の2変数の場合における analogy に相当する。

## §2. 記法

$K$  を複素数体  $\mathbb{C}$  に含まれる類数 1 の虚 2 次体、 $-d_K$  を  $K$  の判別式、 $\mathcal{O}_K$  を  $K$  の整数環とする。  $E$  を  $K$  上定義された楕円曲線で、 $\psi$  による虚数乗法を持つものとし、 $\gamma_E$  を  $E$  の  $K$  上の量指標、 $f$  を  $\gamma_E$  の導手とする。  $E$  の Weierstrass model

$$(2.1) \quad y^2 = 4x^3 - g_2x - g_3$$

を,  $g_2, g_3 \in \mathfrak{H}$  で, (2.1) の判別式が  $6f$  の素因子のみで割り切れるように固定する.  $P(z)$  を, (2.1) に関する Weierstrass  $P$ -関数,  $L$  を  $P(z)$  の周期格子とし,  $L = \Omega_\infty \mathfrak{H}$  なる  $\Omega_\infty \in \mathfrak{H}$  を固定する.  $\xi(z) = (P(z), P'(z))$  とおく.  $\mathfrak{H}$  の元  $\alpha$  を,  $E$  の自己準同型  $\xi(z) \mapsto \xi(\alpha z)$  とみなすことにより,  $\mathfrak{H}$  と  $\text{End}(E)$  とを同一視する.

$K$  の素イデアル  $\mathfrak{f}$  を,  $(\mathfrak{f}, 6d_k N\mathfrak{f}) = (1)$  かつ,  $\mathfrak{f}$  の絶対次数が 1 となるようにとり,  $\mathfrak{p} = N\mathfrak{f}$  とおく.  $(\mathfrak{p})$  は  $K$  で完全分解する:  $(\mathfrak{p}) = \mathfrak{f}\mathfrak{f}^*$ .  $\pi = \psi_E(\mathfrak{f})$ ,  $\pi^* = \psi_E(\mathfrak{f}^*)$  とおく.  $\pi, \pi^*$  はそれぞれ,  $\mathfrak{f}, \mathfrak{f}^*$  の生成元である. 各  $\alpha \in \mathfrak{H}$  に対し,  $E_\alpha = \ker(E \xrightarrow{\alpha} E)$  と書くことにし,  $0 \leq m, n \in \mathbb{Z}$  に対し,

$$F_m = K(E_{\pi^{*m+1}}), \quad K_n = K(E_{\pi^{n+1}}), \quad K_{n,m} = F_m(E_{\pi^{n+1}}),$$

$$F_\infty = \bigcup_{m \geq 0} F_m, \quad K_\infty = \bigcup_{n, m \geq 0} K_{n,m}$$

とおく. このとき  $\mathfrak{f}$  は, 拡大  $F_\infty/K$  で不分岐,  $\bigcup_{n \geq 0} K_n/K$  で完全分岐する. さらに,  $\mathfrak{f}$  の上にある  $F_\infty$  の素イデアルの個数は有限である.

$\mathfrak{f}$  の上にある  $F_\infty$  の素イデアル  $\mathfrak{f}_\infty$  を 1 つ固定し,  $\mathfrak{f}_m = \mathfrak{f}_\infty \cap F_m$  とおく.  $\mathfrak{f}$  の上にある  $F_m$  の各素イデアル  $\mathfrak{v}$  に対し,  $\mathfrak{f}_m^{(\mathfrak{v})}$  を  $F_m$  の  $\mathfrak{v}$  による完備化とし,  $\mathfrak{f}_m^{(\mathfrak{v})}$  の整数環を,  $\mathfrak{H}_m^{(\mathfrak{v})}$  と書く.  $\mathfrak{v}$  の上にある  $K_{n,m}$  の素イデアルは唯一つである. この素イデアルによる  $K_{n,m}$  の完備化を,  $\mathfrak{K}_{n,m}^{(\mathfrak{v})}$  と書く. 特に,  $\mathfrak{v} = \mathfrak{f}_m$  のときは, 添字の  $\mathfrak{v}$  を省略し, 単に  $\mathfrak{f}_m, \mathfrak{H}_m, \mathfrak{K}_{n,m}$  と書くことにする.  $K_g$  を  $K$

の  $\sigma$  による完備化,  $\mathcal{O}_\sigma$  を  $K_\sigma$  の整数環とし, 以下  $\mathcal{O}_\sigma$  を  $\mathbb{Q}_p$  の整数環  $\mathbb{Z}_p$  と同一視する.

$\tau_\sigma = (\sigma, F_\sigma/k) \in \text{Gal}(F_\sigma/k)$  とおく.  $F_\sigma = \bigcup_{m \geq 0} F_m$  とおくと,  $\tau_\sigma$  は拡大  $F_m/k_\sigma$  の Frobenius 同型を導入する. この同型も  $\tau_\sigma$  と書くことにする.

$G_\infty = \text{Gal}(K_\infty/k)$ ,  $\Gamma = \text{Gal}(K_\infty/k_{\infty,0})$ , また,  $E_{\pi^\infty} = \bigcup_{m \geq 0} E_{\pi^{m+1}}$ ,  $E_{\pi^{*\infty}} = \bigcup_{m \geq 0} E_{\pi^{*m+1}}$  とおく. このとき,  $G_\infty$  の  $E_{\pi^\infty}$  及び  $E_{\pi^{*\infty}}$  への作用を表わす標準的な指標  $\kappa_1: G_\infty \rightarrow \mathbb{Z}_p^\times$  及び  $\kappa_2: G_\infty \rightarrow \mathbb{Z}_p^\times$  が定義され,

$(\kappa_1, \kappa_2): G_\infty \cong \mathbb{Z}_p^\times \times \mathbb{Z}_p^\times$ ,  $\Gamma \cong (1+p\mathbb{Z}_p) \times (1+p\mathbb{Z}_p)$  となる. さらに,  $G_\infty = \Gamma \times \Delta$  と分解される. ここに  $\Delta$  は位数  $p-1$  の  $\mathbb{C}^\times$  回群 2 個の直積で, 自然に  $\text{Gal}(K_{\infty,0}/k)$  と同一視される.  $\chi_1 = \kappa_1|_\Delta$ ,  $\chi_2 = \kappa_2|_\Delta$  とおく. このとき,  $\{\chi_1, \chi_2\}$  は  $\text{Hom}(\Delta, \mathbb{Z}_p^\times)$  を生成する.

任意の  $\mathbb{Z}_p[\Delta]$ -加群  $A$  と,  $(i_1, i_2) \in (\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z})^2$  に対し,  $A^{(i_1, i_2)}$  を  $A$  の  $\chi_1^{i_1} \chi_2^{i_2}$ -固有空間とする.  $A$  は,

$$(2.2) \quad A = \bigoplus_{(i_1, i_2) \in (\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z})^2} A^{(i_1, i_2)}$$

と分解される.

$\Lambda = \mathbb{Z}_p[[T_1, T_2]]$  とおく.  $1+p\mathbb{Z}_p$  の位相的生成元  $u$  を固定し,  $r_1, r_2 \in \Gamma$  を,  $\kappa_1(r_1) = \kappa_2(r_2) = u$ ,  $\kappa_1(r_2) = \kappa_2(r_1) = 1$  を満たす  $\Gamma$  の元とする. このとき,  $\Gamma$  は  $\mathbb{Z}_p$  上  $\{r_1, r_2\}$  によって生成される.  $B$  を  $\Gamma$  が連続に作用する compact な  $\mathbb{Z}_p$ -加群とすると,  $B$  には,

$$(1+T_1)\alpha = r_1\alpha, \quad (1+T_2)\alpha = r_2\alpha \quad (\forall \alpha \in B)$$

によつて,  $\Lambda$ -加群の構造が一意に定められる.

$$\omega_{n,1} = (1+T_1)^{p^n} - 1, \quad \omega_{m,2} = (1+T_2)^{p^m} - 1 \quad \text{とおく.}$$

ガロア群  $G_0$  は, 環  $\prod_{\mathcal{I}} K_{n,m}^{(\omega)}$ ,  $\prod_{\mathcal{I}} \mathbb{Z}_m^{(\omega)}$  に自然に作用する.  $K_{n,m}$ ,  $F_m$  は, これらの環に diagonal に埋め込まれる.  $\mathcal{O}_m = \prod_{\mathcal{I}} \mathcal{O}_m^{(\omega)}$  とおく.

$U_{n,m}^{(\omega)}$ ,  $U_{n,m}^{(\omega) \prime}$  をそれぞれ  $K_{n,m}^{(\omega)}$  の単数群, 主単数群とし,

$$U_{n,m}^{\prime} = \prod_{\mathcal{I}} U_{n,m}^{\prime(\omega)}, \quad U_{n,m} = \prod_{\mathcal{I}} U_{n,m}^{(\omega)}$$

$$U_{\infty}^{\prime} = \varprojlim U_{n,m}^{\prime}, \quad U_{\infty} = \varprojlim U_{n,m}$$

とおく. ここに, 逆極限はノルムに関するものである. このとき, 群環  $\mathbb{Z}_p[G_{\infty}]$  は自然に  $U_{\infty}$  に作用し, 従つて  $U_{\infty}$  は compact な  $p$ -加群かつ  $\Lambda$ -加群になる.

$\hat{E}$  を,  $E$  の演算を parameter  $t$ :

$$(2.3) \quad t = -2x/y = -2P(z)/P'(z) = \varepsilon(z)$$

によつて展開して得られる形式群とする.  $\mathbb{Z}$  を加法的形式群  $G_a$  の parameter とみなすと,  $\varepsilon(z)$  は  $\hat{E}$  の exponential map となる.  $\lambda: \hat{E} \rightarrow G_a$  を  $\hat{E}$  の logarithm とする.

$\mathbb{Z}_0$  の代数閉包の完備化を  $\mathbb{C}_p$  と書き,  $\text{ord}_p$  を,  $\text{ord}_p(p) = 1$  と正規化した  $\mathbb{C}_p$  の加法的付値とする.

$K$  の整イデアル  $\mathfrak{g}$  に対し,  $\mathfrak{g} \cap \mathbb{Z}$  の正の生成元を  $k_{\mathfrak{g}}$  と書くことにする. また,  $\mathcal{O}(\mathfrak{g})$  を  $K$  の  $\mathfrak{g}$  を法とする Strahl 類群,  $R_{\mathfrak{g}}$  を  $\mathfrak{g}$  を法とする  $K$  の Strahl 類体とする.  $\text{Gal}(K_{nm}/K)$  の指標  $\chi$

に対し,  $f_x$  を  $\ker \chi$  の固定体の  $K$  上の導手とする.  $f_x$  が  $\mathfrak{g}$  を割り切るとき,  $\chi$  は reciprocity map を経て,  $\mathcal{C}(\mathfrak{g})$  の ~~導手~~ 指標を導入する. この指標を  $\chi'$  と書くことにする. 特に  $\mathfrak{g} = f_x$  のとき,  $\chi'$  は  $\mathcal{C}(f_x)$  の原始的指標になる. これを,  $\tilde{\chi}$  と書くことにする.

### §3. 楕円関数

複素平面内の任意の格子  $\mathcal{L}$  に対し,

$$\sigma(z, \mathcal{L}) = z \prod_{\substack{\omega \in \mathcal{L} \\ \omega \neq 0}} (1 - z/\omega) \exp\left(\frac{z}{\omega} + \frac{1}{2}\left(\frac{z}{\omega}\right)^2\right)$$

$$\theta(z, \mathcal{L}) = \Delta(\mathcal{L}) \exp(-6g_2(\mathcal{L})z^2) \sigma(z, \mathcal{L})^{12}$$

とおく. ここに,  $\Delta(\mathcal{L})$  は  $\mathcal{L}$  の判別式で,  $g_2(\mathcal{L}) = \lim_{s \rightarrow 0^+} \sum_{\substack{\omega \in \mathcal{L} \\ \omega \neq 0}} \omega^{-2} |\omega|^{-2s}$  である.

$K$  の任意の整イデアル  $\mathfrak{a}$  に対し,

$$\Theta(z, \mathfrak{a}) = \theta(z, \mathcal{L})^{N_{\mathfrak{a}}} / \theta(z, \mathfrak{a}^{-1}\mathcal{L})$$

とおく.  $\Theta(z, \mathfrak{a})$  は, 格子  $\mathcal{L}$  に関する楕円関数となる.

各  $(i_1, i_2) \in (\mathbb{Z}/p-1\mathbb{Z})^2$  に対し,  $f$  と  $f_{\chi_1^{i_1} \chi_2^{i_2}}$  の最大公約イデアルを  $f^{(i_1, i_2)}$  と書き,  $K$  のイデアル  $\mathcal{C}^{(i_1, i_2)}$  を,  $f \subseteq \mathcal{C}^{(i_1, i_2)} \subseteq f^{(i_1, i_2)}$  となるように固定する. Yager [7] では,  $\mathcal{C}^{(i_1, i_2)} = f$  の場合が扱われた. ここでは,  $\mathcal{C}^{(i_1, i_2)} = f^{(i_1, i_2)}$  及び  $\mathcal{C}^{(i_1, i_2)} = f$  の場合が後に重要になるが, しばらくこの制限を設けずに議論を進める.

$\mathcal{C}^{(i_1, i_2)}$  の生成元  $c^{(i_1, i_2)}$  を固定し,  $0 \leq m, n \in \mathbb{Z}$  に対し,

$$F_m^{(i_1, i_2)} = F_m(E_{c^{(i_1, i_2)}}), \quad K_{n, m}^{(i_1, i_2)} = K_{n, m}(E_{c^{(i_1, i_2)}})$$

とおく。虚数乗法論により、

$$R_{\mathbb{C}^{(i_1, i_2)} \mathfrak{g}^{*m+1}} \subseteq F_m^{(i_1, i_2)} \subseteq R_{\mathfrak{f} \mathfrak{g}^{*m+1}}, \quad R_{\mathbb{C}^{(i_1, i_2)} \mathfrak{g}^{*n+1} \mathfrak{g}^{*m+1}} \subseteq K_{n,m}^{(i_1, i_2)} \subseteq R_{\mathfrak{f} \mathfrak{g}^{*n+1} \mathfrak{g}^{*m+1}}$$

となる。  $\rho_m^{(i_1, i_2)} = \Omega_\infty / \mathbb{C}^{(i_1, i_2)} \pi^{*m+1}$  とおく。  $B_m^{(i_1, i_2)}$  を、  $K$  の  $\mathfrak{f} \mathfrak{g}^*$  と素な整イデアルの集合で、  $\{(\mathfrak{c}, F_m^{(i_1, i_2)} / K); \mathfrak{c} \in B_m^{(i_1, i_2)}\}$  が重複なく  $\text{Gal}(F_m^{(i_1, i_2)} / F_m)$  に一致するものとする。  $\mathfrak{g}$  を  $\mathfrak{b} \mathfrak{p} \mathfrak{f}$  と素な  $K$  の整イデアル全体の集合とする。各  $\mathfrak{o} \in \mathfrak{g}$  に対し、

$$\Lambda_m^{(i_1, i_2)}(z, \mathfrak{o}) = \prod_{\mathfrak{c} \in B_m^{(i_1, i_2)}} \Theta(z + \psi_{\mathfrak{c}}(\mathfrak{c}) \rho_m^{(i_1, i_2)}, \mathfrak{o})$$

とおく。このとき、  $\Lambda_m^{(i_1, i_2)}(z, \mathfrak{o})$  は、  $F_m$  係数の  $\rho(z)$  と  $\rho'(z)$  の有理関数となり、  $B_m^{(i_1, i_2)}$  のとりかにはよらない。

$\mathcal{S} = \{ \mu: \mathfrak{f} \rightarrow \mathbb{Z} \mid \mu(\mathfrak{o}) = 0 \text{ for almost all } \mathfrak{o} \in \mathfrak{g}, \sum_{\mathfrak{o} \in \mathfrak{g}} (N_{\mathfrak{o}} - 1) \mu(\mathfrak{o}) = 0 \}$  とおき、各  $\mu \in \mathcal{S}$  に対し、

$$\Theta(z; \mu) = \prod_{\mathfrak{o} \in \mathfrak{g}} \Theta(z, \mathfrak{o})^{\mu(\mathfrak{o})}, \quad \Lambda_m^{(i_1, i_2)}(z; \mu) = \prod_{\mathfrak{o} \in \mathfrak{g}} \Lambda_m^{(i_1, i_2)}(z, \mathfrak{o})^{\mu(\mathfrak{o})}$$

とおく。

$z_n = \Omega_\infty / \pi^{n+1}$ ,  $u_n = \varepsilon(z_n)$  とおく。  $\varepsilon_n \in \mathcal{O}$  を  $\varepsilon_n \pi^n \equiv 1 \pmod{\mathfrak{g}^{n+1}}$  なるものとする。このとき、  $C_{n,m}'^{(i_1, i_2)} = \{ \Lambda_m^{(i_1, i_2)}(\varepsilon_n^{m+1} z_n; \mu) \mid \mu \in \mathcal{S} \}$

とおくと、  $C_{n,m}'^{(i_1, i_2)}$  は、  $K_{n,m}$  の単数群の  $G_\infty$ -部分群となる。

各  $\mu \in \mathcal{S}$  に対し、  $\Lambda_m^{(i_1, i_2)}(z; \mu) \in F_m(\rho(z), \rho'(z))$  となるから、各  $\sigma \in \text{Gal}(F_\infty / K)$  に対し、  $\Lambda_m^{(i_1, i_2) \sigma}(z; \mu)$  が定義される。

$$e_{n,m}^{(i_1, i_2)}(\mu) = \Lambda_m^{(i_1, i_2)} z_n^{-n} (\varepsilon_n^{m+1} z_n; \mu), \quad e^{(i_1, i_2)}(\mu) = (e_{n,m}^{(i_1, i_2)}(\mu))_{n,m \geq 0}$$

とおく。このとき、diagonal mapにより  $C_{n,m}'^{(i_1, i_2)} \subseteq \mathcal{U}_{n,m}'$  とみる

と、  $e^{(i_1, i_2)}(\mu) \in \mathcal{U}_\infty'$  となる。

一般に,  $\beta = (\beta_{n,m}^{(\omega)})_{n,m \geq 0} \in \mathcal{U}_\infty'$  とすると, 各  $0 \leq m \in \mathbb{Z}$  及  $\omega$  の上にある  $F_m$  の各素イデアル  $\mathfrak{v}$  に対し, Coleman power series  $C_{m,\beta}^{(\omega)}(T) \in \mathcal{O}_m^{(\omega)}[[T]]$  が存在して,  $\beta_{n,m}^{(\omega)} = C_{m,\beta}^{(\omega)} \tau_2^{-n}(u_n) \ (v_n \geq 0)$  が成り立つ ([2], [7]).  $\mathcal{O}_m[[T]] = \prod_{\mathfrak{v}|\mathfrak{g}} (\mathcal{O}_m^{(\omega)}[[T]])$  と書く. これは,  $G_\infty$ -加群になる.  $C_{m,\beta}(T) = (C_{m,\beta}^{(\omega)}(T))_{\mathfrak{v}|\mathfrak{g}} \in \mathcal{O}_m[[T]]$  とおく.

定理 3.1. 各  $\mu \in \mathcal{S}$  に対し,

$$C_{m, e^{(i_1, i_2)}(\mu)}(T) = \Lambda_m^{(i_1, i_2)}(\pi^{*-(m+1)} \lambda(T); \mu)$$

である.

#### § 4. 2変数 $P$ -変換

本節では, 後で用いられる 2変数  $P$ -変換の基本的性質を述べる.

$\mathcal{O}_p$  を  $\mathbb{C}_p$  の整数環,  $\mu$  を  $\mathbb{Z}_p^2$  上の  $\mathcal{O}_p$ -値 measure とする. このとき,  $\mu$  に中級数

$$(4.1) \quad f_\mu(T_1, T_2) = \sum_{n,m \geq 0} \left( \int_{\mathbb{Z}_p^2} \binom{x_1}{n} \binom{x_2}{m} d\mu \right) T_1^n T_2^m \in \mathcal{O}_p[[T_1, T_2]]$$

が対応し, 対応  $\mu \mapsto f_\mu$  は,  $\mathbb{Z}_p^2$  上の  $\mathcal{O}_p$ -値 measures 全体から  $\mathcal{O}_p[[T_1, T_2]]$  への全単射になる.  $f(T_1, T_2) \in \mathcal{O}_p[[T_1, T_2]]$  に対し,  $f$  に対応する measure を  $\mu_f$  と書くことにする.

$\alpha \in \mathbb{Z}_p^\times$  は,  $\alpha = \omega(\alpha) \langle \alpha \rangle$  と一意に分解される. ここに  $\omega(\alpha)$  は, 1 の  $p-1$  乗根,  $\langle \alpha \rangle \equiv 1 \pmod{p}$  である.  $l(\alpha) \in \mathbb{Z}_p$  を,  $\langle \alpha \rangle = u^{l(\alpha)}$  なる  $\mathbb{Z}_p$  の元とする.

$(i_1, i_2) \in (\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z})^2$ ,  $f \in \mathcal{O}_p[[T_1, T_2]]$  に対し,  $P$ -変換



$$\Gamma_f^{(i_1, i_2)} : \mathbb{Z}_p^2 \rightarrow \mathcal{O}_{\mathbb{C}_p}$$

は,

$$\Gamma_f^{(i_1, i_2)}(\rho_1, \rho_2) = \int_{\mathbb{Z}_p^2 \times \mathbb{Z}_p^2} \langle x_1 \rangle^{\rho_1} \langle x_2 \rangle^{\rho_2} \omega^{i_1}(x_1) \omega^{i_2}(x_2) d\mu_f$$

によって定義される。さらに,

$$f^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = \sum_{n, m \geq 0} \left( \int_{\mathbb{Z}_p^2 \times \mathbb{Z}_p^2} \binom{\langle x_1 \rangle}{n} \binom{\langle x_2 \rangle}{m} \omega^{i_1}(x_1) \omega^{i_2}(x_2) d\mu_f \right) T_1^n T_2^m \in \mathcal{O}_{\mathbb{C}_p}[[T_1, T_2]]$$

とおくと,

$$\Gamma_f^{(i_1, i_2)}(\rho_1, \rho_2) = f^{(i_1, i_2)}(u^{\rho_1-1}, u^{\rho_2-1})$$

が成り立つ。

$\nu$  を導手が  $p^m$  の Dirichlet 指標とするとき, 任意の  $f \in \mathcal{O}_{\mathbb{C}_p}[[T_1, T_2]]$  に対し,  $f_{(\nu, 1)}, f_{(1, \nu)} \in \mathcal{O}_{\mathbb{C}_p}[[T_1, T_2]]$  を,

$$(4.2) \quad f_{(\nu, 1)} = 1/2(u^{-1}, J_{p^m}) \cdot \sum_{a=1}^{p^m} \nu^{-1}(a) f(J_{p^m}^a(1+T_1)-1, T_2)$$

$$(4.3) \quad f_{(1, \nu)} = 1/2(u^{-1}, J_{p^m}) \cdot \sum_{a=1}^{p^m} \nu^{-1}(a) f(T_1, J_{p^m}^a(1+T_2)-1)$$

によって定義する。ここに,  $J_{p^m}$  は任意の 1 の  $p^m$  乗根,  $2(u^{-1}, J_{p^m}) = \sum_{a=1}^{p^m} \nu^{-1}(a) J_{p^m}^a$  で, (4.2), (4.3) の右辺は,  $J_{p^m}$  のとり方にはよらない。

$\nu_1, \nu_2$  が導手が  $p$  中の Dirichlet 指標のとき,  $(f_{(\nu_1, 1)})_{(1, \nu_2)} = (f_{(1, \nu_2)})_{(\nu_1, 1)}$  である。この中核数を,  $f_{(\nu_1, \nu_2)}$  と書く。

$(j, k) \in (\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z})^2$  とすると,

$$\Gamma_{f_{(\omega^j, \omega^k)}}^{(i_1, i_2)}(\rho_1, \rho_2) = \Gamma_f^{(i_1+j, i_2+k)}(\rho_1, \rho_2)$$

となる。 $\chi_1, \chi_2$  が第 2 種 Dirichlet 指標のとき,

$$\Gamma_{f_{(\chi_1, \chi_2)}}^{(i_1, i_2)}(\rho_1, \rho_2) = f^{(i_1, i_2)}(\chi_1(u)u^{\rho_1-1}, \chi_2(u)u^{\rho_2-1})$$

となる。さらに,

$$(f_{(\tau_1, \tau_2)})_{(w^1, w^2)} = f_{(\tau_1 w^1, \tau_2 w^2)}$$

が成り立つ。

$f \in \mathcal{O}_{\mathbb{C}_p}[[T_1, T_2]]$  に対し,

$$U_1 f = f(T_1, T_2) - \frac{1}{p} \sum_{a=1}^p f(J_p^a(1+T_1)-1, T_2)$$

$$U_2 f = f(T_1, T_2) - \frac{1}{p} \sum_{a=1}^p f(T_1, J_p^a(1+T_2)-1)$$

とおく.  $U_1 f, U_2 f \in \mathcal{O}_{\mathbb{C}_p}[[T_1, T_2]]$  である.

$$D_j = (1+T_j)^{\frac{1}{2}} T_j \quad (j=1, 2) \text{ とおく.}$$

任意の measurable function  $\phi: \mathbb{Z}_p^2 \rightarrow \mathcal{O}_{\mathbb{C}_p}$  に対し,

$$\int_{\mathbb{Z}_p^2 \times \mathbb{Z}_p} \phi d\mu_f = \int_{\mathbb{Z}_p^2} \phi d\mu_{U_1 f}, \quad \int_{\mathbb{Z}_p \times \mathbb{Z}_p^2} \phi d\mu_f = \int_{\mathbb{Z}_p^2} \phi d\mu_{U_2 f},$$

$$\int_{\mathbb{Z}_p^2 \times \mathbb{Z}_p^2} \phi d\mu_f = \int_{\mathbb{Z}_p^2} \phi d\mu_{U_1 U_2 f},$$

$$\int_{\mathbb{Z}_p^2} \phi d\mu_{D_j f} = \int_{\mathbb{Z}_p^2} \phi(d_1, d_2) \alpha_j d\mu_f \quad (j=1, 2)$$

が成り立つ.

直接計算により, 作用素  $f \mapsto f_{(U_1, U_2)}$ ,  $f \mapsto U_1 f$ ,  $f \mapsto D_j f$  ( $j=1, 2$ ) は, 互いに可換であることがわかる.

補題 4.1.  $f \in \mathcal{O}_{\mathbb{C}_p}[[T_1, T_2]]$  とし,  $g \in \mathbb{C}_p[[T_1, T_2]]$  は  $D_j g = f$  を満たすとする. このとき,

$$\int_{\mathbb{Z}_p^2 \times \mathbb{Z}_p} \alpha_1^{-1} d\mu_f = g(0, 0) - \frac{1}{p} \sum_{a=1}^p g(J_p^a - 1, 0)$$

である.

§ 5.  $\mathcal{G}_p^{(1,1)}(J-1, J'-1)$  の計算

$\widehat{\mathcal{O}}_p$  を  $\mathbb{Z}_p$  の整数環の完備化とする.  $\eta(T) = \Omega_p T + \dots$  を, Yager [7] で与えられた,  $\widehat{\mathcal{E}}$  から  $G_m$  への  $\widehat{\mathcal{O}}_p$  上の同型とし,  $\psi(T)$  を,

$\eta(T)$  の inverse とする.

各  $\beta \in \mathcal{U}_\infty$  &  $v, 0 \leq m \in \mathbb{Z}$  に対し, [7] で定義されたように,

$$g_{m,\beta}(T) = \lambda'(T)^{-1} d/dT \log C_{m,\beta}(T) \in \mathcal{O}_m[[T]],$$

$$g_\beta(T_1, T_2) = \lim_{m \rightarrow \infty} \sum_{\sigma \in \text{Gal}(F_m/K)} (g_{m,\beta}^\sigma(T_1))_{g_m} (1+T_2)^{k_2(\sigma)} \in \widehat{\mathcal{O}}_\infty[[T_1, T_2]]$$

$$h_\beta(T_1, T_2) = g_\beta(i(T_1), T_2)$$

とおく. さらに,  $(i_1, i_2) \in (\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z})^2$  に対し,

$$G_\beta^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = (U, h_\beta)^{(i_1-1, -i_2)} (U^{-1}(1+T_1)-1, (1+T_2)^{-1}-1)$$

とおく. このとき,  $\beta \mapsto G_\beta^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2)$  は,  $\mathcal{U}_\infty$  から  $\widehat{\mathcal{O}}_\infty[[T_1, T_2]]$  への  $\wedge$ -準同型で ([7] 定理 22),  $G_\beta^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = G_{\beta^{(i_1, i_2)}}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2)$  となる. ここに,  $\beta^{(i_1, i_2)}$  は, canonical な分解 (2.2) で,  $A = \mathcal{U}_\infty$  の場合における  $\beta$  の  $\mathcal{U}_\infty^{(i_1, i_2)}$ -成分である.

各  $n \geq 0$  に対し,  $\mathcal{V}_n$  を 1 の  $p^n$ -乗根全体のなす群とし,  $\mathcal{V}_\infty = \bigcup_{n \geq 0} \mathcal{V}_n$  とおく.

以下, 本節では,  $(j, j') \in \mathcal{V}_\infty^2$  に対し,  $G_\beta^{(i_1, i_2)}(j-1, j'-1)$  を, 前節で述べた 2 変数  $P$ -変換の性質を用いて計算する. 特に,  $\beta = \langle e^{(i_1, i_2)}(u) \rangle^{(i_1, i_2)}$  の場合の結果が, §6, §7 で述べる定理の証明で有用となる.

$\varphi_j, \varphi_{j'}$  を,  $\varphi_j(u) = j, \varphi_{j'}(u) = j'$  を満たす第 2 種 Dirichlet 指標とし,  $\varphi_j w^{i_1}, \varphi_{j'} w^{i_2}$  の導手をそれぞれ  $p^{n_j(i_1)}, p^{n_{j'}(i_2)}$  とする.

以下,  $\varphi_j w^{i_1}, \varphi_{j'} w^{i_2}$  のうち少なくとも一方は自明でない と仮定

する.

各  $m \geq 0$ ,  $\beta \in \mathcal{U}_\infty$ ,  $\sigma \in \text{Gal}(F_m/k)$  に対し,

$$h_{m,\beta,\sigma}(T) = (g_{m,\beta}^\sigma(W))_{g_m} \Big|_{W=i(T)}$$

とおく. このとき,  $m+1 \geq n_j(i_2)$  なる  $m$  に対して,

$$(U_i h_\beta)_{(\varphi_j^{-1} \omega^{i_1}, \varphi_j^{-1} \omega^{-i_2})} \equiv \sum_{\sigma \in \text{Gal}(F_m/k)} (U_i h_{m,\beta,\sigma}(T_i))_{(\varphi_j \omega^{i_1}, 1)} \left( (1+T_2)^{k_2(\sigma)} \right)_{(1, \varphi_j^{-1} \omega^{-i_2})} \pmod{\omega_{m+1,2} \widehat{\mathcal{O}}_\infty[[T_1, T_2]]}$$

が成立する. また,

$$D_1(\log(C_{m,\beta}^\sigma(W))_{g_m} \Big|_{W=i(T_i)}) = \Omega_g^{-1} h_{m,\beta,\sigma}(T_i)$$

も成り立つ. 以下  $S_{p^{n+1}}$  は

$$i(S_{p^{n+1}} - 1) = u_n = \varepsilon(\sqrt{\infty}/\pi^{n+1})$$

を満たすようにとられているものとする. このとき, [7]補題

2 を考慮に入れることにより,  $m+1 \geq n_j(i_2)$  なる  $m$  に対し,

次の等式が得られる.

$$\begin{aligned} & g_p^{(i_1, i_2)}(S-1, S'-1) \\ &= \int_{\mathbb{Z}_p^* \times \mathbb{Z}_p} \chi_1^{-1} d\mu(U_i h_\beta)_{(\varphi_j \omega^{i_1}, \varphi_j^{-1} \omega^{-i_2})} \\ &= \Omega_g \sum_{\sigma \in \text{Gal}(F_m/k)} \left\{ U_i \left( \log(C_{m,\beta}^\sigma(W))_{g_m} \Big|_{W=i(T_i)} \right)_{(\varphi_j \omega^{i_1}, 1)} \left( (1+T_2)^{k_2(\sigma)} \right)_{(1, \varphi_j^{-1} \omega^{-i_2})} \right\} \Big|_{(0,0)} \\ &= \left\{ \begin{aligned} & \Omega_g / \pi(\varphi_j^{-1} \omega^{-i_1}, S_{p^{n_j(i_1)}}) \cdot \sum_{\sigma \in \text{Gal}(F_m/k)} \left( \sum_{a=1}^{p^{n_j(i_1)}} \varphi_j^{-1} \omega^{-i_1}(a) \varphi_j^{-1} \omega^{-i_2}(k_2(\sigma)) \right. \\ & \quad \left. \times \log_p(C_{m,\beta}^\sigma(T))_{g_m} \Big|_{T=[a]_{\widehat{\mathcal{O}}_\infty(u_{n_j(i_1)}-1)}} \right) \quad (\text{if } \varphi_j \omega^{i_1} \neq 1) \\ & \Omega_g / p \sum_{\sigma \in \text{Gal}(F_m/k)} \varphi_j^{-1} \omega^{-i_2}(k_2(\sigma)) \sum_{a=1}^{p-1} \log_p \left\{ C_{m,\beta}^\sigma(0) / (C_{m,\beta}^\sigma(T))_{g_m} \Big|_{T=[a]_{\widehat{\mathcal{O}}_\infty(u_0)}} \right\} \\ & \quad (\text{if } \varphi_j \omega^{i_1} = 1) \end{aligned} \right. \end{aligned}$$

ここに,  $\log_p$  は  $C_p^*$  上定義された  $p$ -進対数である.

次に,  $\beta = \langle e^{(i_1, i_2)}(\mu) \rangle^{(i_1, i_2)}$  ( $\mu \in \mathcal{S}$ ) の場合を考える.

定理 3.1 により,  $n, m \geq 0$ ,  $\sigma \in \text{Gal}(F_m/k)$ ,  $a \geq 1$  に対し,

$$\begin{aligned} (C_{m, e^{(i_1, i_2)}(\mu)}(T))_{g_m} \Big|_{T=[a] \in (U_n)}^\sigma &= \Lambda_m^{(i_1, i_2)}(\varepsilon_n^{m+1} a z_n; \mu) \\ (C_{m, e^{(i_1, i_2)}(\mu)}(0))^\sigma &= \Lambda_m^{(i_1, i_2)}(0; \mu)^\sigma \end{aligned}$$

となる.

$n+1 \geq n_f(i_1)$ ,  $m+1 \geq n_f(i_2)$  なる  $n, m$  に対し,  $\text{Gal}(K_{n,m}/k)$  の指標  $\varphi_f^{(1)} \chi_1^{i_1} \varphi_f^{(2)} \chi_2^{i_2}$  を,

$$\varphi_f^{(1)} \chi_1^{i_1} \varphi_f^{(2)} \chi_2^{i_2}(\sigma) = \varphi_f \omega^{i_1}(k_1(\sigma)) \cdot \varphi_f \omega^{i_2}(k_2(\sigma))$$

により定義する.

$\mathfrak{g} \neq (1)$  を  $K$  の整イデアルとするとき,  $C \in \mathcal{O}(\mathfrak{g})$  に対し,  $\varphi_{\mathfrak{g}}(C) \in R_{\mathfrak{g}}$  を, Robert [6] で定義された ray class invariant とする.

このとき, 直接計算により,

$$\begin{aligned} \Lambda_m^{(i_1, i_2)}(\varepsilon_n^{m+1} z_n, \mathfrak{a})^{k_{n,m}^{(i_1, i_2)}} &= N_{K_{n,m}^{(i_1, i_2)}/K_{n,m}} \left( \varphi_{\mathbb{Z}^{(i_1, i_2)} g^{n+1} g^{*m+1}}(C_0)^{N_{\mathfrak{a}}} / \varphi_{\mathbb{Z}^{(i_1, i_2)} g^{n+1} g^{*m+1}}(C_0)^{\sigma(\mathfrak{a})} \right)^{\sigma_{n,m}^{(i_1, i_2)}}, \\ \Lambda_m^{(i_1, i_2)}(0, \mathfrak{a})^{k_{n,m}^{(i_1, i_2)}} &= N_{F_m^{(i_1, i_2)}/F_m} \left( \varphi_{\mathbb{Z}^{(i_1, i_2)} g^{*m+1}}(C'_0)^{N_{\mathfrak{a}}} / \varphi_{\mathbb{Z}^{(i_1, i_2)} g^{*m+1}}(C'_0)^{\sigma(\mathfrak{a})} \right) \end{aligned}$$

が任意の  $\mathfrak{a} \in \mathfrak{g}$  に対して成り立つことがわかる. ここに,

$$\begin{aligned} k_{n,m}^{(i_1, i_2)} &= k_{\mathbb{Z}^{(i_1, i_2)} g^{n+1} g^{*m+1}}, \quad \sigma_{n,m}^{(i_1, i_2)} = ((\varepsilon_n^{m+1} c^{(i_1, i_2)} \pi^{*m+1} + \pi^{n+1}), R_{\mathbb{Z}^{(i_1, i_2)} g^{n+1} g^{*m+1}}/K), \\ \sigma(\mathfrak{a}) &= (\mathfrak{a}, R_{\mathbb{Z}^{(i_1, i_2)} g^{n+1} g^{*m+1}}/K) \text{ で, } C_0, C'_0 \text{ はそれぞれ } \mathcal{O}(\mathbb{Z}^{(i_1, i_2)} g^{n+1} g^{*m+1}), \\ &\mathcal{O}(\mathbb{Z}^{(i_1, i_2)} g^{*m+1}) \text{ の unit ray class である.} \end{aligned}$$

$\mathcal{O}(\mathfrak{g})$  の任意の指標  $\chi$  に対し,

$$S_{\mathfrak{g}}^{(p)}(\chi) = \sum_{C \in \mathcal{O}(\mathfrak{g})} \chi^{-1}(C) \log_p(\varphi_{\mathfrak{g}}(C))$$

とおく.

類体論により,  $[K_{n,m}^{(i_1, i_2)} : R_{\mathbb{Z}[i_1, i_2]g^{n+1}g^{*m+1}}]$  は,  $n, m$  に無関係となる. この拡大次数を  $d^{(i_1, i_2)}$  と書く.

$\eta_{\mathbb{Z}}^{(i_1, i_2)} = (\chi_1^{i_1} \chi_2^{i_2})' \left( (\varepsilon_{n_{\mathbb{Z}}(i_1)-1}^{m+1} c^{(i_1, i_2)} \pi^{*m+1} + \pi^{n_{\mathbb{Z}}(i_1)}) \right)$  とおく. これは  $m$  には依存しない.

各  $\mu \in \mathcal{S}$  に対し,

$$h_{\mu}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = \sum_{\alpha \in \mathcal{G}} \mu(\alpha) \left( N\alpha - \omega^{i_1}(\Psi_E(\alpha)) \omega^{i_2}(\overline{\Psi}_E(\alpha)) \right) \times (1+T_1)^{l(\Psi_E(\alpha))} (1+T_2)^{l(\overline{\Psi}_E(\alpha))}$$

とおく. このとき, Robert [6] §2.3 定理2 を用いて直接計算することにより, 次の定理が得られる.

定理5.1.  $(i_1, i_2) \in (\mathbb{Z}/p-1\mathbb{Z})^2$ ,  $\mu \in \mathcal{S}$ ,  $(s, s') \in \mathcal{T}_{\infty}^2$  とし,  $\varphi_s \omega^{i_1}$ ,  $\varphi_{s'} \omega^{i_2}$  のうち少なくとも一方は自明でないとする. このとき,  $m+1 \geq n_{\mathbb{Z}}(i_2)$  なる  $m \geq 0$  に対し,

(1)  $\varphi_s \omega^{i_1} \neq 1$  なら,

$$g_{\langle e^{(i_1, i_2)} \rangle_{(i_1, i_2)}}^{(i_1, i_2)}(s-1, s'-1) = \frac{\Omega_{\mathbb{Z}} d^{(i_1, i_2)} \eta_{\mathbb{Z}}^{(i_1, i_2)} \int^l(c^{(i_1, i_2)}) \int^{s'} l(\pi^{n_{\mathbb{Z}}(i_1)})}{k_{\mathbb{Z}(i_1, i_2)} g_{n_{\mathbb{Z}}(i_1)} g^{*m+1} \mathcal{Z}(\varphi_s^{-1} \omega^{-i_1}, \int p_{n_{\mathbb{Z}}(i_1)})} \\ \times h_{\mu}^{(i_1, i_2)}(s-1, s'-1) S_{\mathbb{Z}(i_1, i_2)g_{n_{\mathbb{Z}}(i_1)}g^{*m+1}}^{(P)} \left( (\varphi_s^{(1)} \chi_1^{i_1} \varphi_{s'}^{(2)} \chi_2^{i_2})' \right)$$

$$(2) g_{\langle e^{(i_1, i_2)} \rangle_{(i_1, i_2)}}^{(i_1, i_2)}(0, s'-1) = \frac{\Omega_{\mathbb{Z}} d^{(i_1, i_2)} \omega^{i_2}(\pi) \int^{s'} l(\pi)}{p k_{\mathbb{Z}(i_1, i_2)} g^{*m+1}} \cdot h_{\mu}^{(i_1, i_2)}(0, s'-1)$$

$$\times (p - \int^{s'} l(\pi) \omega^{i_2}(\pi)) S_{\mathbb{Z}(i_1, i_2)g^{*m+1}}^{(P)} \left( (\varphi_{s'}^{(2)} \chi_2^{i_2})' \right)$$

となる.

次に,  $[^{(i_1, i_2)} = f^{(i_1, i_2)}$  と  $[^{(i_1, i_2)} = f$  の場合を比較してみよう.

$[^{(i_1, i_2)} = f^{(i_1, i_2)}$  のとき,  $c^{(i_1, i_2)}$ ,  $e^{(i_1, i_2)}(\mu)$ ,  $d^{(i_1, i_2)}$ ,  $\eta_f^{(i_1, i_2)}$  をそれぞれ  $f^{(i_1, i_2)}$ ,  $\hat{c}^{(i_1, i_2)}$ ,  $\hat{d}^{(i_1, i_2)}$ ,  $\hat{\eta}_f^{(i_1, i_2)}$  と書く.  $[^{(i_1, i_2)} = f$  のとき,  $c^{(i_1, i_2)}$ ,  $e^{(i_1, i_2)}(\mu)$ ,  $\eta_f^{(i_1, i_2)}$  をそれぞれ,  $f$ ,  $\hat{e}^{(i_1, i_2)}(\mu)$ ,  $\hat{\eta}_f^{(i_1, i_2)}$  と書く. 後者の場合は,  $d^{(i_1, i_2)} = 1$  である.

[6] § 2.3 定理 2 により,

$$\frac{S_f^{(P)} g^{n_{f_1}(i_1)} g^{n_{f_2}(i_2)} (|\varphi_f^{(1)} \chi_{i_1} \varphi_f^{(2)} \chi_{i_2}'|)}{k_f g^{n_{f_1}(i_1)} g^{n_{f_2}(i_2)}} \\ = \frac{S_f^{(P)} g^{n_{f_1}(i_1)} g^{n_{f_2}(i_2)} (|\varphi_f^{(1)} \chi_{i_1} \varphi_f^{(2)} \chi_{i_2}'|)}{k_f g^{n_{f_1}(i_1)} g^{n_{f_2}(i_2)}} \prod_{\substack{\nu \text{ 素イデアル} \\ \nu | f, \nu \nmid f^{(i_1, i_2)}}} \{1 - \widetilde{(\varphi_f^{(1)} \chi_{i_1} \varphi_f^{(2)} \chi_{i_2}')^{-1}(\nu)}\}$$

となる.  $f^{(i_1, i_2)}$  と素な任意の素イデアル  $\nu$  に対し,  $d_\nu$  を  $\nu$  の任意の生成元とする.  $U_\nu^{(i_1, i_2)} = \widetilde{(\chi_{i_1} \chi_{i_2}')^{-1}(\nu)}$ ,  $\varepsilon^{(i_1, i_2)} = \hat{\eta}_f^{(i_1, i_2)} / \hat{\eta}_f^{(i_1, i_2)}$  とおく.  $\varepsilon^{(i_1, i_2)}$  は  $\mathcal{J}$  には依存しない.  $G_{\langle \hat{e}^{(i_1, i_2)}(\mu) \rangle^{(i_1, i_2)}}(T_1, T_2)$ ,  $G_{\langle \hat{e}^{(i_1, i_2)}(\mu) \rangle^{(i_1, i_2)}}(T_1, T_2)$  の  $(T_1, T_2) = (\mathcal{J}-1, \mathcal{J}-1)$  における値を比較することにより, 次の系が得られる.

系 5.2.

$$G_{\langle \hat{e}^{(i_1, i_2)}(\mu) \rangle^{(i_1, i_2)}}(T_1, T_2) = (\hat{d}^{(i_1, i_2)})^{-1} \varepsilon^{(i_1, i_2)} (T_1 + 1)^{\ell(f) - \ell(f^{(i_1, i_2)})} \\ \times \left\{ \prod_{\substack{\nu | f \\ \nu \nmid f^{(i_1, i_2)}}} (1 - U_\nu^{(i_1, i_2)})^{-1} (1 + T_1)^{-\ell(d_\nu)} (1 + T_2)^{-\ell(\bar{d}_\nu)} \right\} G_{\langle \hat{e}^{(i_1, i_2)}(\mu) \rangle^{(i_1, i_2)}}(T_1, T_2)$$

である.

§ 6.  $\mathcal{Y}_\infty^{(i_1, i_2)}$  の構造

本節では、任意の  $(i_1, i_2) \in (\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z})^2$  に対し、 $\Gamma^{(i_1, i_2)} = \mathbb{F}^{(i_1, i_2)}$  と仮定する。

$n, m \geq 0$  に対し、 $C_{n,m}'^{(i_1, i_2)}$  を  $\mathcal{U}_{n,m}'$  の部分群とみて、 $C_{n,m}^{(i_1, i_2)} = C_{n,m}'^{(i_1, i_2)} \cap \mathcal{U}_{n,m}$  とおき、 $\overline{C_{n,m}^{(i_1, i_2)}}$  を  $C_{n,m}^{(i_1, i_2)}$  の閉包とする。 $\overline{C_{n,m}^{(i_1, i_2)}}$  の  $\chi_1^{i_1} \chi_2^{i_2}$ -固有空間を  $\overline{C_{n,m}^{(i_1, i_2)}}$  と書き、

$$\overline{C_{n,m}} = \bigoplus_{(i_1, i_2) \in (\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z})^2} \overline{C_{n,m}^{(i_1, i_2)}} \quad (\subseteq \mathcal{U}_{n,m})$$

とおく。 $\overline{C_{n,m}}$  の  $\chi_1^{i_1} \chi_2^{i_2}$ -固有空間は、 $\overline{C_{n,m}^{(i_1, i_2)}}$  に一致する。

$$\mathcal{Y}_\infty^{(i_1, i_2)} = \varprojlim (\mathcal{U}_{n,m} / \overline{C_{n,m}})^{(i_1, i_2)}$$

とおく。逆極限はノルムに関するものである。

$D^{(i_1, i_2)}$  を  $\{ \langle \tilde{e}^{(i_1, i_2)}(\mu) \rangle^{(i_1, i_2)} \mid \mu \in \mathcal{S} \}$  によって生成される  $\mathcal{U}_\infty$  の  $\Lambda$ -部分加群とする。このとき、

$$\mathcal{Y}_\infty^{(i_1, i_2)} \cong \mathcal{U}_\infty^{(i_1, i_2)} / D^{(i_1, i_2)}$$

となる。

Yager [7] で、 $\Lambda$ -単準同型

$$W^{(i_1, i_2)}: \mathcal{U}_\infty^{(i_1, i_2)} \longrightarrow \Lambda$$

が構成され、さらに、 $\phi^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) \in (\widehat{\mathcal{O}}_\infty[[T_1, T_2]])^\times$  が存在して、

$$G_\beta^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = \phi^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) W^{(i_1, i_2)}(\beta) \quad (\forall \beta \in \mathcal{U}_\infty^{(i_1, i_2)})$$

となることが証明された。 $\mathcal{X}^{(i_1, i_2)} = \mathcal{I}_m W^{(i_1, i_2)}$  とおく。 $H^{(i_1, i_2)}$  を、

$\{ h_\mu^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2); \mu \in \mathcal{S} \}$  によって生成される  $\Lambda$  のイデアルとする。

$(i_1, i_2) \neq (0, 0), (1, 1)$  のとき、 $H^{(i_1, i_2)} = \Lambda$ 。  $H^{(0, 0)} = T_1 \Lambda + T_2 \Lambda$ ,



$H^{(1,1)} = (T_1 + 1 - u) \wedge + (T_2 + 1 - u) \wedge$  である. ([7] 補題 28)

定理 6.1. 各  $(i_1, i_2) \in (\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z})^2$  に対し,  $g^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) \in \Lambda$  が存在して,

$$g_{\infty}^{(i_1, i_2)} \cong \mathcal{H}^{(i_1, i_2)} / g^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) H^{(i_1, i_2)}$$

となる.

(証明)  $W^{(i_1, i_2)}(D^{(i_1, i_2)}) = g^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) H^{(i_1, i_2)}$  となる  $g^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) \in \Lambda$  を構成すればよい.

(1)  $(i_1, i_2) = (0, 0)$  のとき; 定理 5.1 により,  $e^{(0,0)} \in D^{(0,0)}$  が存在して,

$$g_{e^{(0,0)}}^{(0,0)}(T_1, T_2) / T_1 \in \widehat{\mathcal{O}}_{\infty}[[T_1, T_2]]$$

かつ, 任意の  $(s, s') \in (\mathbb{V}_{\infty} - \{1\})^2$  に対し,

$$g_{e^{(0,0)}}^{(0,0)}(s-1, s'-1) / (s-1) = \frac{\Omega_g \chi^{(0,0)} \int^{\ell} (\pi^{\eta_{s'}(0)})}{k_g^{\eta_s(0)} g^{\eta_{s'}(0)} \mathcal{Z}(\varphi_s^{-1}, \int_p \eta_s(0))} S_{g^{\eta_s(0)} g^{\eta_{s'}(0)}}^{(p)}((\varphi_s^{(1)} \varphi_{s'}^{(2)})')$$

となる. さらに, 任意の  $\mu \in \mathcal{S}$  に対して,

$$g_{\langle e^{(0,0)} / \mu \rangle^{(0,0)}}^{(0,0)}(T_1, T_2) = h_{\mu}^{(0,0)}(T_1, T_2) \cdot 1/T_1 \cdot g_{e^{(0,0)}}^{(0,0)}(T_1, T_2)$$

が成り立つ. 従って,  $g^{(0,0)}(T_1, T_2) = W^{(0,0)}(e^{(0,0)}) / T_1$  とおくことにより,

$$W^{(0,0)}(D^{(0,0)}) = g^{(0,0)}(T_1, T_2) H^{(0,0)}$$

が成立する.

(2)  $(i_1, i_2) = (1, 1)$  のとき;  $\mu_1, \dots, \mu_t \in \mathcal{S}$  及び  $f_1, \dots, f_t \in \Lambda$  が存在して,  $T_1 + 1 - u = \sum_{j=1}^t f_j(T_1, T_2) h_{\mu_j}^{(1,1)}(T_1, T_2)$  となる.

$$\hat{e}^{(1,1)} = \prod_{j=1}^t f_j \langle \hat{e}^{(1,1)}(\mu_j) \rangle^{(1,1)}, \quad \hat{e}^{(1,1)} = \prod_{j=1}^t f_j \langle \hat{e}^{(1,1)}(\mu_j) \rangle^{(1,1)}$$

とおく. このとき, [7]定理29の証明から,  $g_{\hat{e}^{(1,1)}}^{(1,1)}(T_1, T_2) \in (T_1+1-u) \hat{\mathcal{O}}_{\infty}[[T_1, T_2]]$  となり, さらに系5.2から  $g_{\hat{e}^{(1,1)}}^{(1,1)}(T_1, T_2) \in (T_1+1-u) \hat{\mathcal{O}}_{\infty}[[T_1, T_2]]$  となることがわかる. よって,  $g^{(1,1)}(T_1, T_2) = W^{(1,1)}(\hat{e}^{(1,1)}) / (T_1+1-u)$  とおくと, (1)と同様に,

$$W^{(1,1)}(D^{(1,1)}) = g^{(1,1)}(T_1, T_2) H^{(1,1)}$$

が成立する.

(3)  $(i_1, i_2) \neq (0,0), (1,1)$  のとき; (1),(2)の場合と同様に,  $e^{(i_1, i_2)} \in D^{(i_1, i_2)}$  が存在して

$$g_{\langle \hat{e}^{(i_1, i_2)}(\mu) \rangle^{(i_1, i_2)}}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = h_{\mu}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) g_{e^{(i_1, i_2)}}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) \quad (\forall \mu \in \mathcal{S})$$

となる.  $g^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = W^{(i_1, i_2)}(e^{(i_1, i_2)})$  とおけばよい.

### §7. p-進 L-関数との関係

Yager [7]では, 前節の  $\overline{C}_{n,m}^{(1,0)}$  の  $\chi_1 \chi_2^{-1/2}$ -固有空間を  $\overline{C}_{n,m}^{(i_1, i_2)}$  とおいて,  $\Lambda$ -加群  $\varprojlim \mathcal{V}_{n,m}^{(i_1, i_2)} / \mathcal{C}_{n,m}^{(i_1, i_2)}$  の characteristic power series と p-進 L-関数との関係性が考察された.  $\overline{C}_{n,m}^{(i_1, i_2)}$  を, 前節で述べたように定義すると,  $\mathcal{Y}_{\infty}^{(i_1, i_2)}$  の characteristic power series  $g^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2)$  は, 原始的な p-進 L-関数の補間級数と,  $\hat{\mathcal{O}}_{\infty}[[T_1, T_2]]$  で同伴になる. このことについて, これから説明する.

各  $k \geq 1$  に対し,  $L(\Psi_E^k, \rho)$  を, 量指標  $\Psi_E^k$  に対する原始的な Hecke L-関数とする. また,  $L_f(\Psi_E^k, \rho)$  を,  $\Psi_E^k$  を mod  $f$  の量指標とみたときの Hecke L-関数とする. 任意の  $0 \leq j < k$  に対し,

$$(7.1) \quad L_{\infty}(\overline{\Psi}_E^{k+j}, k) = (1 - \Psi_E(\varrho)^{k+j}/(N\varrho)^{j+1}) (1 - \overline{\Psi}_E(\varrho^*)^{k+j}/(N\varrho^*)^k) \\ \times (2\pi/\sqrt{d_k})^j \Omega_{\infty}^{-(k+j)} L(\overline{\Psi}_E^{k+j}, k)$$

$$(7.2) \quad L_{f,\infty}(\overline{\Psi}_E^{k+j}, k) = (1 - \Psi_E(\varrho)^{k+j}/(N\varrho)^{j+1}) (1 - \overline{\Psi}_E(\varrho^*)^{k+j}/(N\varrho^*)^k) \\ \times (2\pi/\sqrt{d_k})^j \Omega_{\infty}^{-(k+j)} L_f(\overline{\Psi}_E^{k+j}, k)$$

とおく. Damerell の定理により, (7.1), (7.2) の右辺は代数的数になるので,  $\mathbb{C}_p$  の元ともみられる. このとき, 各  $(i_1, i_2) \in (\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z})^2$  に対し,  $g_f^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2)$  が  $\widehat{\mathcal{O}}_{\infty}[[T_1, T_2]]$  の中に存在して,  $k_1 > -k_2 \geq 0$ ,  $(k_1, k_2) \equiv (i_1, i_2) \pmod{p-1}$  なる任意の  $k_1, k_2 \in \mathbb{Z}$  に対し,

$$(7.3) \quad g_f^{(i_1, i_2)}(u^{k_1-1}, u^{k_2-1}) = (k_1-1)! \Omega_{\varrho}^{k_2-k_1} L_{f,\infty}(\overline{\Psi}_E^{k_1-k_2}, k_1)$$

となる. ([7] 定理 29)

$$(7.4) \quad g^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = \prod_{\varrho \in \mathbb{F}_f^* \setminus \mathbb{F}_f^{(i_1, i_2)}} (1 - \nu_{\varrho}^{(i_1, i_2)-1} (1+T_1)^{-l(d_{\varrho})} (1+T_2)^{-l(d_{\varrho})})^{-1} g_f^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2)$$

とおく. このとき, 次の定理が成立する.

定理 7.1. 各  $(i_1, i_2) \in (\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z})^2$  に対し,  $g^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2)$  は,  $g_f^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2)$  と  $\widehat{\mathcal{O}}_{\infty}[[T_1, T_2]]$  で同伴である. さらに,  $k_1, k_2 \in \mathbb{Z}$  が,  $k_1 > -k_2 \geq 0$ ,  $(k_1, k_2) \equiv (i_1, i_2) \pmod{p-1}$  を満たすとき,

$$(7.5) \quad g^{(i_1, i_2)}(u^{k_1-1}, u^{k_2-1}) = (k_1-1)! \Omega_{\varrho}^{k_2-k_1} L_{\infty}(\overline{\Psi}_E^{k_1-k_2}, k_1)$$

となる.

(証明) 前半は,  $g^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2)$ ,  $g_f^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2)$ ,  $g^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2)$  の構成法と, 系 5.2 からわかる. 後半は,  $\Psi_E^{k_1-k_2}$  の導手が  $f^{(i_1, i_2)}$  であることと, L-関数の Euler 積分分解から得られる.

## 文献

- [1] J. Coates and A. Wiles, On  $p$ -adic  $L$ -functions and elliptic units, *J. Austr. Math. Soc (series A)* 26, (1978), 1-25.
- [2] R. Coleman, Division values in local fields, *Invent. Math.* 53 (1979), 91-116.
- [3] C. Goldstein, Courbes elliptiques et theorie d'Iwasawa, *Pub. Math. D'orsay*, 82-01.
- [4] K. Kozuka, Elliptic units and two variable  $p$ -adic  $L$ -functions, to appear in *Mem. Facu. Scie., Kyushu Univ.*
- [5] S. Lang, *Cyclotomic fields*, Springer-Verlag, New York 1978.
- [6] G. Robert, Unités elliptiques, *Bull. Soc. Math. France Mémoire*, 36 (1973).
- [7] R. Yager, On two variable  $p$ -adic  $L$ -functions, *Ann. of Math.*, 115 (1982), 411-449.